

「自然災害伝承碑」から避難ルートを考えてみよう

私たちの住む日本は、豊かな自然に恵まれている一方で、地震、津波、洪水、土砂崩れなどの自然災害が多い国でもあります。昔の人々は、悲しい災害の記憶を風化させないため、そして未来の私たちへの警告として、石碑やモニュメントを残しました。それが「自然災害伝承碑」です。

01. 自然災害伝承碑を知る

碑文が伝える記録

自然災害伝承碑とは、過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害などの自然災害に関する情報を伝える石碑やモニュメントのことで、一般に、発生年月日、災害種別、災害範囲、被害内容や規模などが刻まれています。

<読みにくい碑文を読む技術「ひかり拓本」>

読みにくい碑文を読むには「ひかり拓本」という技術があります。石碑に刻まれた文字などに対し、様々な角度で光を照射・撮影してできた影から画像を合成する技術です。従来の紙と墨を使う拓本と違い、石碑を汚すことなく効率よく文字を確認できます。

高知県須崎市にある
「南海地震記録碑(原町地藏堂)」



ひかり拓本で裏面の
碑文を鮮明にした様子



【碑文の概要】

「1946年の地震では強い揺れの後に津波が来て、多くの家が壊れ人が亡くなった。地震後は火を消し、すぐ高い場所へ逃げるのが大切で、災害は忘れた頃に起こる。」と教えている。

建立場所

自然災害伝承碑は、被災場所に建てられていることが多く、自然災害は同じ場所で起こりやすい性質があることから、その場所の災害リスクを知ることができます。

右の写真は、平成30年7月豪雨の災害現場です。向かって右上(赤枠)に、1907年に起こった洪水・土石流を伝える伝承碑があります。

この伝承碑は、100年以上前の水害を伝えるものですが、多くの犠牲者が出たこの地区では地域住民にその内容が十分に伝承されていませんでした。



平成30年7月豪雨での土石流被災地(広島県坂町)

02. 地図を使って「過去」と「現在」をつなぐ

国土地理院が公開している「地理院地図」を使うと、全国の自然災害伝承碑を簡単に見つけることができます。

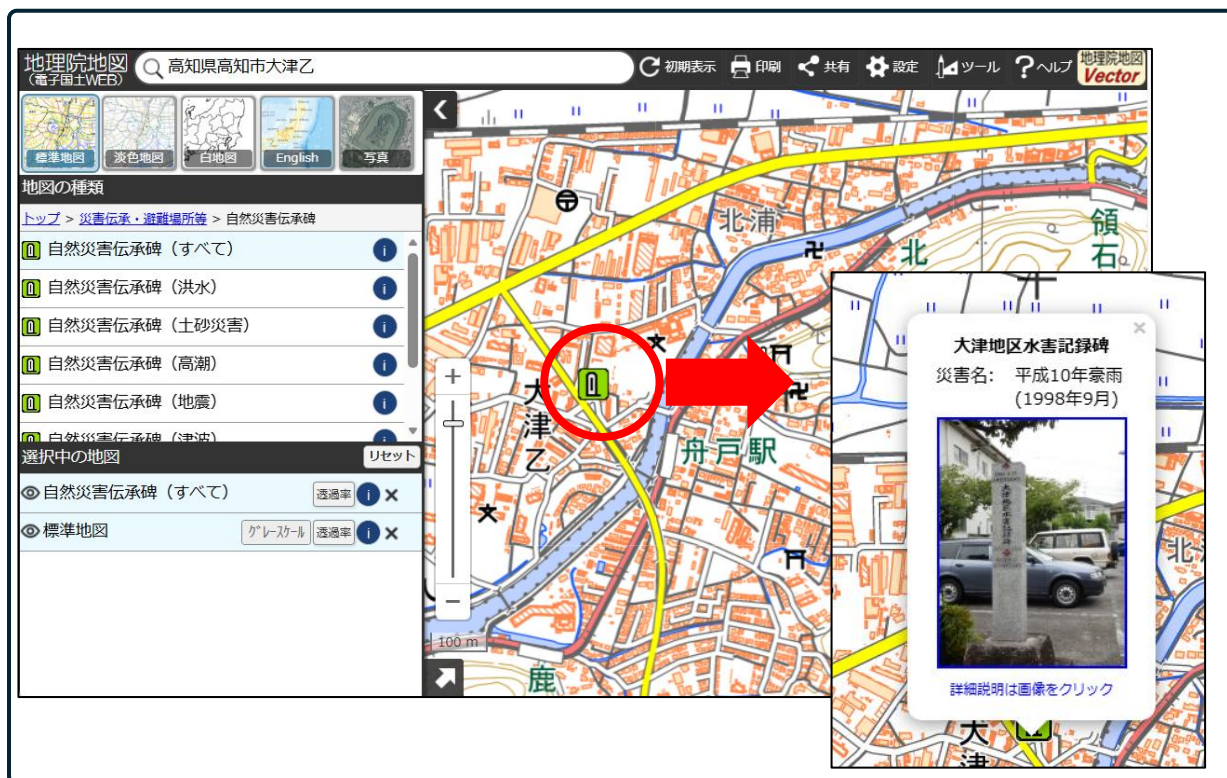
地理院地図の使い方

1. インターネットで「地理院地図」と検索してアクセス。
2. 画面左上の「地図」→「災害伝承・避難場所」→「自然災害伝承碑」を選択。
3. 地図上にアイコンが表示されます。クリックすると、碑文の内容や写真が見られます。

表示方法解説
(国土地理院)



地理院地図の表示画面



MISSION 1

学校や自宅の近くを調べてみる

自分の住んでいる地域に、自然災害伝承碑はあるでしょうか。見つからない場合は、少し範囲を広げて、どんな種類の災害(水害や地震など)の記録が多いか調べてみましょう。

03.ウェブ地図上で他の災害リスク情報と重ね合わせる

地理院地図や重ねるハザードマップ上で「自然災害伝承碑」と他の災害リスク情報を重ねることで、その地域でどのような災害が起こる可能性があるのか、危険なエリアを具体的にイメージできます。



チェックポイント

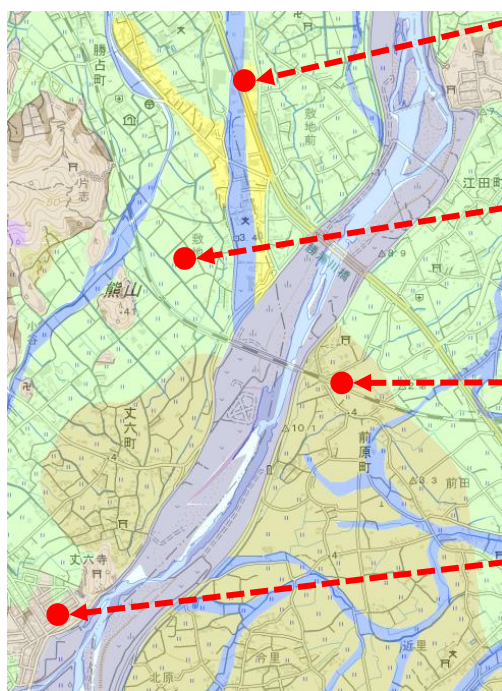
洪水浸水想定区域：河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域

自然災害伝承碑：被災した場所に建てられていることが多い

洪水浸水想定や伝承内容から、災害時の被害をイメージできます

04. 「なぜ」そこで災害が起きたかを考える

自然災害伝承碑がある場所には、災害が起きやすい「地形的特徴」を探ることが多いです。地形を確認しましょう。また、地形の自然災害リスクを把握しましょう。



地形分類(自然地形)

旧河道（昔 川が流れていた場所）

地震時の液状化や大雨時の氾濫などの心配がある。また、氾濫時には周囲よりも長期間浸水する場合もある。

氾濫平野・海岸平野

河川の氾濫に注意する必要がある。また、沿岸部では高潮にも注意が必要。

扇状地

大雨の時などに土石流などの土砂災害が発生することがある。

山地斜面等

急斜面(等高線の間隔が狭い)の場合、大雨や地震により、土砂崩れや雪崩が発生する危険性がある。

地理院地図で地形分類(自然地形)を詳しく知りたい場合はこちら



05. 避難ルートを考えてみる

危険なエリアがわかったら、避難場所までの避難ルートを考えてみましょう。

MISSION 2

避難ルートを作成する

自宅から最寄りの避難場所までのルートを地図に書き込んでみましょう。

1. ルート上に「危険な場所(ブロック塀、川のそば、崖など)」はないか？
2. 雨が降っているときや夜るとき、安全に通れるか？

参考：避難ルート近辺に「自然災害伝承碑」が建立されていないか確認してみましょう。

(伝承内容に記載された過去の被害から、他の災害リスクなど1.や2.の情報を補える場合があります。)

- ※ 指定緊急避難場所を「地理院地図」や「重ねるハザードマップ」から閲覧することができます。
- ※ 改修工事や土地の使い方の変化などで当時と同様な災害が起きるとは限りません。
- ※ 自然災害伝承碑が無い場所でも災害が起きる可能性があります。

参考・出典情報

国土地理院「自然災害伝承碑」公開ページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>)

国土地理院「地理教育の道具箱」(<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/index.html>)

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 ひかり拓本プロジェクト

ひかり拓本マニュアル(<https://repository.nabunken.go.jp/dspace/bitstream/11177/10124/1/hikatakumannual v1.pdf>)

国立研究開発法人 海洋研究開発機構 高知コア研究所(<https://www.jamstec.go.jp/kochi/j/news/20231014.html>)

令和8年10月作成